

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立名護屋小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向け、全職員による共通理解のもと学習規律の定着や家庭学習の充実を図る取り組みを継続して実践することができた。今後は、マイプランによる共通実践をさらに充実させ、「書く力」を高めるための指導法を工夫し、授業改善を図ってきたい。</li> <li>・月ごとの生活目標を意識した取り組みを継続して実践し、「自ら判断し、行動できる力」の向上を図ることができた。特に「挨拶」「言葉遣い」については、保護者や地域からの評価も高くなってきており、更なる定着が図れるように今後も継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・地域や保護者に対して、本年度の教育の目標や重点取組、実践活動の様子などを発信・周知し、理解を得ることができた。来年度は、コロナ禍による変化に対応しながら地域との連携をいかに図っていくかが課題となる。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>ふるさとを愛し、夢に向かって輝く児童の育成</p> <p>～優しく 賢く 逞しい 名護屋っ子～</p>
3 本年度の重点目標	<p>(1) 豊かな心の育成(児童理解と支援の推進) ～自他のよさに気づきながら、大らかさと温かき心で行動する子ども～</p> <p>(2) 学力向上の推進(分かる授業の実践と学力向上の取組) ～未知の世界に関心をもち、自ら進んで学ぼうとする子ども</p> <p>(3) 健康づくり・安全指導の充実(豊かな体験活動の推進) ～精一杯体を動かし、最後まで粘り強く取り組む子ども</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・1学期終了時点では取り組みが遅れている学年があったが、2学期初めに個人の進捗状況を出していただき、必読図書のスティージア者が増えた。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランで、家庭は、ほぼ達成することができた。必読図書の読破については、もう少しで達成という学年があった。成果指標を設定しなおす必要がある。	A	・授業を参観するなかで、楽しい授業、分かりやすい授業だなあと感じた。	学び部 学力向上コーディネーター 研究主任
	○基礎的・基本的学習内容の定着	○海育中校区各学年の家庭学習目標時間の達成率を90%以上にする。 ○家庭学習提出率90%以上を維持する。 ○学習用具の準備率を90%以上にする。	・家庭学習を工夫し、授業に生かしたり、個別指導に生かしたりする。 ・学校便り、学級便り、懇談会などと呼びかけ、家庭との連携を緊密にする。	A	・「よい子のくらし」アンケート結果では、家庭学習時間は92%、提出率は96%、用具の準備率は93%と3つの項目も達成している。「よい子のくらし」の週間以外でもできるように声掛けをしていく。	A	・1月のよい子のくらし点検の結果では、家庭学習目標時間の達成率96%、家庭学習提出率94%、学習用具の準備率90%である。 よい子のくらし点検週間以外でも意識して達成できるよう指導を継続していく。	A	・子ども達の基礎を作る時期なので、今まで通りしっかりとやってもらいたい。 ・小中の中にもどれだけ基礎を身に付けられるかが大切だと思う。	学び部 学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全児童が、「〇〇名人」に1回はなるようにする。 ○公の場で相手を尊重する呼称(さん)をつけることのできる児童を80%以上にする。 ○進んで挨拶ができる児童を90%以上にする。 ○あいさつの場面や時間を具体的に設定して取り組ませる。	・内発的動機付けのできる児童の育成を心掛け、意識をして指導をしていく。 ・生活のめあてに準じて、月ごとに〇〇名人の氏名を発表・掲示し、動機付けを行う。 ・学校・学級だよりや保護者会などで呼びかけ、家庭との連携を図る。 ・帰りの会等に友だちの良さを見つけさせる等認め合う場を設ける。	B	・各月ごとの名人の取り組みは、児童に生活目標を意識させるためには有効な手立てであり、各人目指して頑張る姿が見られた。また、学校・各学級からの通信は細目に出されており、家庭との連携は図られている。友達の良いところを見つけた活動は、良い意見は出るもの、生活の中に生かされているかというところも少しであると思われる。良い意見を取り上げて続けていこうという呼びかけが必要である。	A	・「〇〇名人」の取り組みにより、以前より児童の自尊感情は高まってきていると考えられる。また、今年度より取り組んできた公の場での呼称(～さん)についても、教師が意識することで児童にも広がりを見せており目標値の80%は達成したのではないだろうか。挨拶は、コロナ後の取り組みの成果が出てきている。	A	・体育館のスロープ作りは障がい者の方の事を考えるよい機会となっており、「なごやか(福祉施設)」との交流は、お年寄りを大切にしている気持ちや育てることにつながっている。 ・人を尊重する姿勢は社会に出てからも重要なことですので、その心はずっと大切にしていきたいと思う。	豊か部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○Q-Uテストで「学級生活満足群」の割合を70%以上にする。 ○いじめ未解決件数を0件にする。	・心のアンケートを各学期に1回実施し、状況把握に努める。 ・実践的な教職員の校内研修を1回以上実施する。 ・Q-Uの結果を基に、SCやSSW等と協力しながら良好な対人関係を築く。	B	・6月に全校一斉に1回目のQ-Uテストを行い、「学級生活満足群」の割合が全校平均で62.8%であった。8月23日にQ-Uテストの分析と活用」の研修会を実施し、各学級の現状分析と2学期への方針を立てた。 ・心のアンケート(いじめアンケート)を2学期中旬までに2回を行い、各学級の課題があれば、その都度検討委員会をひらき、対策をとった。	B	・6月に全校一斉に1回目のQ-Uテストを行い、「学級生活満足群」の割合が全校平均で62.8%であったが、2学期の2回目を行い、「学級生活満足群」の割合が65.5%であった。各学年で増減はあったが、学級集団としてまとまる方向に向かっている。 ・心のアンケート(いじめアンケート)を3学期中旬までに3回を行い、各学級の課題があれば、その都度検討委員会をひらき、対策をとった。	A	・先生方子ども達に対する思いやりが伝わり、いじめなどもおこにくく感じている。 ・裏表のない人、人に感化されたい人を作っていくことが大切だと思う。	生徒指導主任
●健康・体づくり	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童へのアンケートにおいて、「自分の目標に向かって進んで取り組むことができた。」の項目を85%以上にする。	・あとして達成可能な目標を立てさせると共に、自ら率先して行動に移せるよう環境を整え支援を行う。 ・目標達成に向けた姿や取組内容の紹介をしたり、仲間同士で取組みに対する交流の場を設けたりし、自己肯定感の向上を図る。	B	・学級担任を通じ、児童に学期毎の目標をたてさせ、常に目につくところへ掲示して意識の喚起を図った。また、適宜、声をかけたり振り返りをさせたりしながら、児童自身に目標内容を意識させた。しかし、取組内容の紹介及び交流の場を設けることに関してはまだ不十分であると思われる。	A	・年間を通して、学期の目標や各活動のめあて等、児童の意欲や思いを教室に掲示してもらった。また、中学校まで引き継ぐキャリアパスポートの内容の1つとしても、先生方へ確実な文書の保管を周知した。児童へのアンケートにおいては、数値目標の85%を上回る91.8%を達成しており、児童の努力と取組の成果が見られた。	A	・子ども達にいかにもやる気をもたせるかが大切だと思う。勉強もスポーツもできるようなると楽しいので、そのようにして伸ばしていけるとよい。 ・子ども達は何にでもやる気十分に取り組むことができていると思う。	教務主任
	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童80%以上	・教員や委員会からの広報により外遊びを奨励したり、外遊びをよくしている学年を称賛したりする。 ・スポーツチャレンジの記録を毎回更新しようとする意欲を継続するために、記録を掲示したり学級だよりで広報したりする。	B	・多くの児童が屋外で元気に遊んでいる姿が見られる。しかし、ほぼ毎日同じ遊びをしているので、体を動かす遊びの紹介などを行いたい。2学期後半からはスポーツチャレンジの啓発を行っている。	B	・季節を問わず、多くの児童が外遊びを行い、アンケートでは数値目標を上回った。外遊びをすることで体が鍛えられたのか、昨年度より大きなけがをする児童が少なくなった。スポーツチャレンジ、なわとび名人等各学級の担任の先生方も運動の啓発に取り組んでいた。	A	・運動会やクラブ活動などを見ると、どの子ども達も生き生きと取り組んでいて感心した。	たくまし部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童100%以上	・学級指導や保健だよりで食事の大切さを伝えていく。毎日の生活健康チェック表の項目に食事の大切さを意識できる項目を加える。	A	・給食だより、保健だより、保健指導の中で食事の大切さを伝えた。9月に行った調査でも「健康に食事は大切である」と考える児童は2年連続で100%となった。	A	・朝食喫食状況調査を毎日、生活健康チェック表で年間を通して実施した。保護者、子供達の意識も高まっている。 ・保健だよりを毎月発行し、望ましい食習慣についても感染症と絡めながら触れた。	A	・中学校では朝食を食べていない生徒が数名いた。生活習慣や親の影響もあるので、今後も家庭への啓発が重要となると思う。	たくまし部
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定や勤務時間再編により、業務改善や時間外勤務削減に対する意識を高める。 ・全職員の時間外勤務時間を把握し、必要に応じて業務の分担や見直しをし、改善を図る。	B	・全職員の時間外勤務時間の平均は23.4時間であり、昨年度より削減傾向にある。 ・金曜日に設定している定時退勤日への取り組みも概ねよいといえる。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均は22.7時間で、昨年度よりさらに削減傾向にあり、良好といえる。業務の効率化や時間外勤務削減への意識、児童と向き合う時間の確保について、「努力している」が83.3%。	A	・子ども達と関わるということは大変な事であり、時間がかかることでもあると思う。	管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校行事及び業務の精選と改善	○会議や研修及び事務等の効率化を図り、教職員が児童と向き合うなど本来の業務に専念できるようにする。	・放課後の会議や研修等を水曜日のみに設定し、授業準備や児童・保護者対応等の時間を確保する。 ・懇談会や学期末事務等における業務の効率化を図る。	A	・会議や行事等の精選・効率化を図る中で、授業準備や児童保護者対応の時間を確保することができた。 ・業務の効率化について、来年度に向けた見直しも進められている。	A	・業務の効率化を図るとともに、コロナ禍に対応しながら学校行事等の活動を進めることができた。教育活動の一層の充実を図るために見直しをしたり次年度の取組を検討したりした。	A	・学校では1年1年行事などが変化している中で、そこに対応しながら次に進めていこうという先生方の努力が見られる。	管理職
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	●重点取組	●具体的取組	●進捗度(評価)	●進捗状況と見通し	●達成度(評価)	●実施結果	●評価	●意見や提言	●主な担当者
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○ふるさとのよさを生かした教育活動を推進し、積極的に発信することで、ふるさとを愛し、誇りをもつ児童を育てる。	・韓国学習、茶道体験、郷土の歴史学習、宿泊学習等、博物館や公民館と連携した教育活動を展開する。 ・学校における教育活動の様子を保護者や地域に向けて積極的に発信する。	A	・コロナ禍により一部中止や制限はあるが、地域の方や他の機関との連携をしながら、計画された教育活動を実施することができた。 ・学校だよりの発行や参観等を通して、教育活動の様子を保護者や地域に向けて発信できている。	A	・地域の方や他の機関との連携の中で教育活動を実施するとともに、新たな地域人材の活用により、学習の広がりが生まれた。 ・定期発行の学校だよりを保護者や地域に配布するとともに、他の情報と合わせてHPに掲載し発信した。	A	・先生方と地域とが切磋琢磨しながら信頼を深められたらいいと思う。	管理職
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の推進	○定期的に校内特別支援委員会等を開催し、教職員間で情報共有・共通理解を行い、特別支援教育の充実を図る。	・児童が安定した学校生活を送れるようになり、一人一人が主人公の学校づくりに努め、常に寄り添った指導・支援を心がける。	A	・2学期中旬までに校内支援委員会を4回行い、全職員の共通理解を図り、児童の支援に努めてきた。来年度の新規入級者が2名認められた。	A	・3学期末までに校内支援委員会を5回行い、全職員の共通理解を図り、児童の支援に努めてきた。来年度へ向けた支援体制をとることができた。	A	・先生方が子ども達一人一人を大切にされていることが伝わってくる。	特別支援コーディネーター
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向け、全職員による共通理解のもと学習規律の定着や家庭学習の充実を図る取り組みを継続して実践することができた。家話や必読図書については、それぞれの進捗状況を把握しながら全体的な取組としての更なる充実を図ってきたい。</li> <li>・月ごとの生活目標を意識した取り組みを継続して実践し、目標に向かって意欲的に取り組む児童の割合は90%を上回るなど、学校全体の取組もとり努力と取り組みの成果が見られた。</li> <li>・地域や保護者に対して、本年度の教育の目標や重点取組、実践活動の様子などを発信・周知を継続し、理解と協力を得ることができた。また、新型コロナウイルスに対応に伴う各行事等の縮小や制限を見直ししながら改善を図り、次年度の計画につなげることができた。</li> </ul>									